

平成24年度 歴史的風致維持向上推進等調査

「課外授業による歴史まちづくり担い手育成手法検討調査」

龍野地区まちづくり協議会

報告書

平成25年3月

国土交通省都市局

目次

第1章 本業務の目的と概要

I 本業務の目的	1
II 調査の概要	
1 歴史的建造物の改修等の課外授業	2
2 歴史まちづくりの担い手を育成する地域の体制	2

第2章 龍野川西地区の概要と課題

I 地域の概要	3
II 地域の課題	
1 歴史的建造物の課題	7
2 担い手の課題	7
III 協議会の体制と取組	
1 龍野地区まちづくり協議会	8
2 龍野地区まちづくり協議会の取組	11
3 学校における課外授業の位置づけ	13
IV 昨年の実施状況	
1 平成23年の課題研究の状況	15
2 平成23年の課題研究の課題	15
V 課題解決に向けた方策の検討	18

第3章 歴史的建造物の改修等の課外授業

I 調査体制・実施の流れ	
1 調査体制・実施の流れ	19
II 調査計画	
1 課外授業のプログラムの計画	20
2 課外授業の教材の計画	28
3 教材の選定	29
4 今回の教材（物件）	30

III 課外授業の実施状況	
1 課外授業の実施状況・意見	31
2 実施状況の総括	52
IV プログラムや教材の評価・改善	
1 意見の集約	55
2 意見の分析	57
3 実施したプログラムや教材に対する評価・改善	58

第4章 歴史まちづくりの担い手を育成する地域の体制

I 地域の体制	
1 地域の体制づくり	59
2 資金の調達	60
3 地域の体制づくりと資金の調達の必要性	60

第5章 本調査のまとめ

I 本調査でわかったこと	
1 担い手育成の手法の開発	61
2 高校生の課外授業のプログラムの開発	61
3 地域の体制づくりと資金の調達の構築	61
II 今後の課題	
1 課外授業	62
2 教材の検討	62
3 卒業生への支援	62
III まとめ	
まとめ	63

概要案	
.....	65

その他参考資料

1 課外授業調査報告	66
2 龍野地区まちづくり協議会ミニニュース「わがまち龍野 瓦版」	84
3 平成24年度歴史的風致維持向上推進等調査報告会 資料	96

第1章 本調査の目的と概要

I 本調査の目的

歴史的まち並みが現存する地域において、町家等の歴史的建造物が適切なメンテナンスをされずに老朽化し、取り壊され空地化するといったケースが増加している。

歴史的まち並みを保全していくためには、適切なメンテナンスや修理等を行える地域に密着した職人等が必要であり、地元高校生等が歴史的建造物等について興味を持つ機会を作り、技術を習得できる環境を整えることで、歴史まちづくりの若い担い手を育成していくことができる。また、若い担い手を育成するためには、歴史的建造物の所有者や地域住民の協力等により、技術習得等の活動を継続的に支えていくとともに、地域で歴史的まち並みの保存と活気ある地域づくりに取り組むことが効果的である。

本調査はたつの市をモデル地域として、地元高校生が歴史的建造物への愛着とその保存等の取り組みを職業として興味を持てる課外授業を実施するとともに、課外授業で歴史的建造物に興味を持った高校生や卒業生のさらなる育成と地域の意識向上に向け、地域の歴史的建造物の改修等に高校生や地域住民が関わる体制づくりの検討を行うことによって、次世代の歴史まちづくりの担い手を育成する取り組みを促進することを目的とする。



II 調査の概要

1 歴史的建造物の改修等の課外授業

高校生が歴史的建造物への愛着と、歴史的建造物の改修等を職業として興味を持つような課外授業のプログラムや教材を作成し、モデルとなる取り組みを龍野地区で実施する。課外授業は、地域住民の歴史まちづくりへの関心を高めるとともに、高校生が設計士・大工・左官等の専門家等と交流を深められるような方法で実施する。

また、課外授業の実施状況を記録し、参加した高校生の意見をとりまとめることによって、プログラムや教材の評価・改善を行う。

課外授業の実実施計画概要としては、龍野醤油協同組合所有のうすくち醤油資料館別館で、龍野地区まちづくり協議会が建築士会龍野支部青年部会と連携をし、県立龍野北高等学校の生徒に建築現場の基本や伝統工法の施工など20回程度の課外授業を行う。

高校生が専門家等と交流を深める場として歴史的建造物の改修等に携わる様子を、次世代の歴史まちづくりの担い手を育成する取組を行っている全国のまちづくり団体や建築士会等へ、今後の取組の参考として伝えるため、課外授業の状況を映像化する。

2 歴史まちづくりの担い手を育成する地域の体制

課外授業の実施により、興味を持った高校生や卒業生達の継続的な育成が可能となるように、地域住民の協力のもと高校生達が技術を習得し、歴史的建造物のメンテナンス等に関わっていけるような地域の体制づくりについて検討を行う。検討にあたっては、継続的に担い手育成の取り組みを実施できるように、課外授業や地域活動等の実施に必要な資金を調達する仕組みについて検討を行う。また、歴史的建造物の改修等の課外授業の実施の取り組みが、地域住民等の歴史まちづくりへの関心や活動に対し、どのような波及効果があったかについて把握し、高校生等の若い担い手が歴史まちづくりに取り組むことによって、地域住民の意識向上や活動の促進が効果的に図られるような体制となるように検討を進める。

地域体制を構築するために、協議会の新聞や回覧板等で地域への広報活動を行う。地域での会議なども月1回行い、住民の意見を聴衆し効果を把握しながら進める。

第2章 龍野川西地区の概要と課題

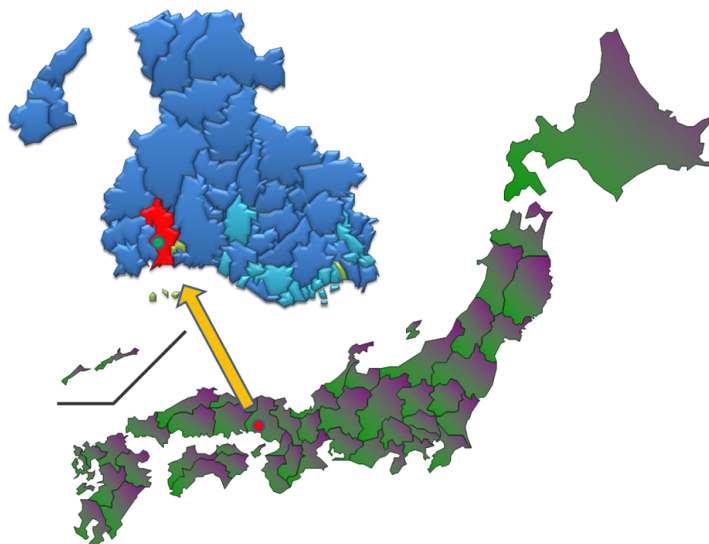
I 地域の概要

【位置】

たつの市は、兵庫県の西南部の西播磨地域に位置しており、南北に長い地形になっている。市域の北側は山地が広がり、南は瀬戸内海に面し、南北に貫く形で揖保川が流れており、自然環境に恵まれた地域になっている。

【面積】

たつの市は、東経 134 度 32 分、北緯 34 度 51 分に位置し、東西 15.7km、南北 29.8km で 210.93 平方キロメートルの面積を有する。



【人口】

総人口は、平成 7 年までの推移では、一貫して増加の傾向が続いたが、平成 12 年では微減となり、平成 17 年では、81,561 人となっている。

【市章】

たつの市のローマ字の頭文字「T」を図案化したもの。

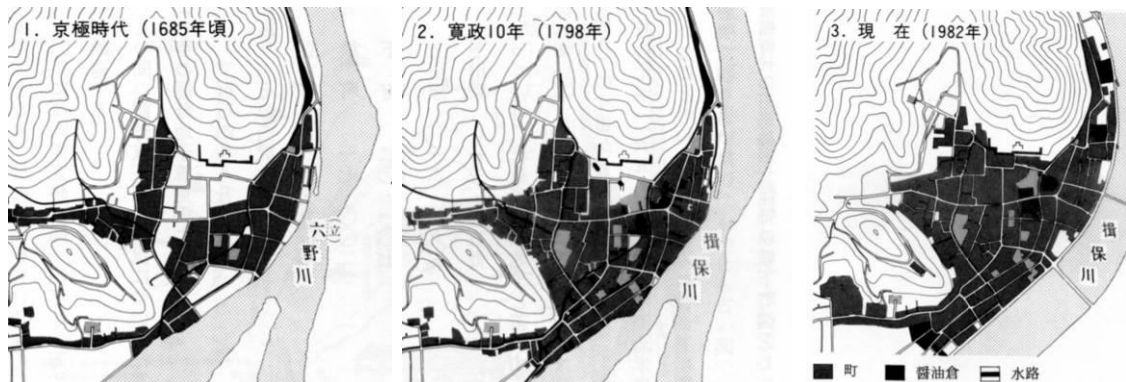
光豊かな太陽と、実り大地、揖保川から湧き立つ清風を、赤・緑・青の 3 色で描き、自然に恵まれた市域と未来への飛翔を表現する。



【 歴 史 】

兵庫県たつの市、龍野川西地区の歴史は古く「播磨国風土記」には、すでに龍野の地名のおこりが記載されている。

鶏籠山、的場山、白鷺山と揖保川に囲まれた扇状地で、鶏籠山上に龍野城が築かれたのは文明年間とも明応年間とも言われ、初代城主は赤松村秀であった。江戸時代になってから城は麓に移り、寛文12年に信州飯田から脇坂安政が入封し、明治維新まで200年間、脇坂10代によりその藩政が続いた。特に城下町の貴重な町割りは、大きな政変や第二次世界大戦の空襲も受けることなく、今も大きく変わらず町なかはその遺構を見ることができ、伝統産業の醤油業の醤油蔵とが醸し出す特色ある町並みを作っている。



【 保 存 】

1982年には伝統的建造物群保存対策調査が行われたり、1985年には第8回全国町並みゼミも開催されているなど、生きた城下町博物館都市として注目されてきた。

平成2年に兵庫県都市景観形成地区指定になり、4つのゾーンで景観をまもる基準が設けられた。

平成7年からは町並み保存のために、民間の建物を対象に「町並み整備助成事業」を立ち上げ、景観形成地区内の現存する建物の中で特に重要なものを伝統的建造物として選定された上で、修景する場合にその工事費の一部を助成するようになっている。



【魅力】

龍野地区は、各地伝建地区の要素を併せ持つ複合的／独自の文化的景観を形成している。

【歴史的景観としての価値】

本町、上川原町、北龍野、日山等各町に町家が連続して建ち並び、歴史的景観を形成していること。



【文化的景観としての価値】

醤油工場（地場産業）、近代建築、近代洋風、和風住宅、寺院、が混在し、独自の町並み景観を形成していること。



【有形文化財（建造物）としての価値】

町家：近世中期以降、各時期の遺構が連続して現存し歴史的景観を形成していること。



伝統産業の醤油業の醤油蔵が醸し出す特色ある町並みを作っている龍野川西地区は、「城下町生きている地割」「伝統産業（醤油）がいきづく城下町」「みず・みどり、そして町並み」「瓦屋根の下、みどころ散歩」「多才な人材とその旧跡」「町家にみる多彩な様式」「武家地区の近代和風住宅」「まちづくりの多様な展開」など魅力であり、みんなの自慢である。

II 地域の課題

1 歴史的建造物の課題

龍野川西地区の伝統的な景観を再認識し、保存と活用を考えていこうと動きがある反面、町家など古い建物がどんどん壊され、伝統的な町並み景観が急速に失われている状況が続いている。また、建築基準法の施行以前の建築物であり、構造上や防火上について現行法の規定等に適合していない面があることから、その修景等において課題を抱えている。

2 担い手の課題

伝統的な建造物を修景するにあたり伝統工法の技術を再認識し、伝統工法での修景を目指す必要がある。町並みを保存していく上で伝統工法の継承のための技術や技能者の育成や後継者づくりが大切になってくるが、技術者を目指す担い手が非常に少なく、継承が困難になっている。

更に、町並みに不調和な建築物の増加により、住民によるまちづくりの活動や新たな担い手を引き寄せる魅力などの町家が蓄積してきた様々な価値が失われつつある。



興味・感心・町への愛着が薄れているという課題がある

Ⅲ 協議会の体制と取組

1 龍野地区まちづくり協議会

龍野川西地区は、龍野地区まちづくり協議会を平成 12 年に設置し、龍野地区の健全で住み良く活気のあるまちづくりを推進することを目的し活動を始めました。

- ① 地域のまちづくりの研究及び協議
- ② 地域住民の総意を反映したまちづくり構想の策定
- ③ まちづくり計画の実現に関する協議
- ④ 会員への広報

その他、上記目的を達成するために事業を行う。

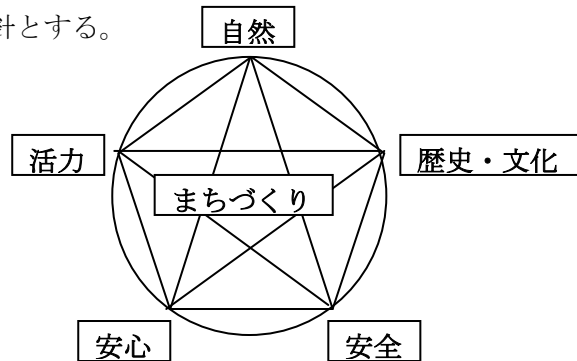
会員は、地域内の居住者、地域内の土地及び建築物の所有者、地域内において事業を行う者で構成している。

龍野地区まちづくり協議会が活動を行っているまちは、15 世紀末、赤松氏の時代から、自然発生的な宿場町を原形に城下町として形成された伝統がる。現在も「町並み環境整備事業」により、この伝統ある町並みの保全、修復に努めている。しかし近年は、建物の老朽化や細街路の存在などによる住環境の劣化、人口の少子高齢化に伴う商店街の衰退など、まちの活気が著しく停滞している。

このような状況に鑑み、当地区のまちづくりにあたっては、良い点を生かし、問題点を解消する方向で「歴史・文化と自然を大切にし、安全・安心で活力あるまち」を基本目標にまちづくりに取組んでいる。

【まちづくりの基本方針】

「歴史・文化と自然を大切にし、安全・安心で活力あるまち」の基本目標達するために、次の5つをまちづくりの基本方針とする。



自然：山や川を大切に自然と共生するまちづくり

山や川を大切にするとともに、ごみや廃品のリサイクルなどの環境循環システムの導入を図り、地球環境にやさしいまちづくりを推進する。

歴史・文化：伝統的町並みや文化を継承するまちづくり

地域の文化活動や伝統的町並み環境の保全、博物館等の充実を図り、地域の歴史や文化の継承に努める。

安全：安全・便利で快適環境のあるまちづくり

水路、ひろば、駐車場、道路、街路などの整備や買物施設の充実を図り、安全・便利で快適な生活環境の形成に努める。

安心：子供や高齢者にやさしい安心なまちづくり

近所付き合いや、助け合いの気持ちを大切に、子供や高齢者にやさしいコミュニティのある安心なまちづくりを推進する。

活力：来街者のある活力と賑わいのあるまちづくり

商店街の活性化や地場産業、コミュニティビジネスの積極的な展開を図り、来街者にも支えられた活力と賑わいのあるまちづくりを推進する。

【龍野地区まちづくり協議会 本調査組織】

本調査体制	氏 名	龍野地区まちづくり協議会役職
管理者	武内憲章	事務局長
担当者	久保勝	会長
担当者	満田邦弘	副会長
担当者	田中晋	事務局次長
担当者	乾伸陽	会計
担当者	浅井良昭	伝建部会長
担当者	岸野裕児	伝建部会員

2 龍野地区まちづくり協議会の取組

年間を通じ龍野地区まちづくり協議会は、歴史的建造物を活用したり露地を演出するなど様々な取組を行っている。

4月初旬 『龍野武者行列』

脇坂甚内安治公の賤ヶ岳の勝ち戦を祝う祭。

龍野神社から祇園神社・粒座神社・たつの市役所の間を約 300 人の甲冑武者が龍野地区の歴史的建造物群を歩く。

7月7日 『七夕笹飾り』

常照寺から善龍寺の間の歴史的建造物群の町並みを七夕笹飾りで演出する。

11月下旬 『オータムフェスティバル in 龍野』

龍野地区の歴史的建造物群を保存しながら活用し、建物を生かすために、各人が空き家等を借りて敷地内でイベントを行っている。



11月下旬 『龍野アートプロジェクト刻の記憶』

地域に残る醤油蔵や歴史的建造物を再生・活用し、現代美術展を開催することにより、芸術とまちの魅力を国内外に発信し、地域の活性化と国際交流を図っている。



2月下旬 『町ちゅう美術館』

龍野地区の景観形成地区で県立龍野北高等学校の生徒と町の芸術家が醤油蔵や寺として町家を活用し、美術展を実施している。



3月下旬 『龍野ひな祭り』

龍野地区の町家等を活用し雛飾りをして、町並みを散策している。

3 県立龍野北高等学校における取組

【課題研究の目的】

県立龍野北高等学校環境建設工学科では、課題研究の中で地域連携事業「まちづくり貢献活動」といった町に出て授業を行う課外授業が、23年から取組まれている。

課題研究の目標は、工業に関する基礎的・基本的な学習の上に立って、工業に関する課題を生徒自らが設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決に向けて意欲的に取り組む能力や自発的、創造的な学習態度を育てることである。

この科目では、これまでの学習により身に付けてきた知識と技術を活用させ、生徒自らが、工業に関するテーマを設定し、計画を立て、作品製作、調査、研究、実験、産業現場等における実習、職業資格の取得などを行い、結果を整理・発表し、研究を深める活動を通して、自分で課題を見付け、自ら学び自ら考え、主体的に判断し、問題をよりよく解決しようとする資質や能力を育成することが大切である。

【課題研究の内容とその取扱い】

この科目は、(1)作品製作、(2)調査、研究、実験、(3)産業現場等における実習、(4)職業資格の取得の4項目で構成しており、2～4単位程度履修されることを想定して、内容を構成している。また、内容の構成及び取扱いに当たっての留意事項は次のように示されている。

○生徒の興味・関心、進路希望等に応じて、内容の(1)から(4)までの中から個人又はグループで適切な課題を設定させること。なお、課題は内容の(1)から(4)までの2項目以上にまたがる課題を設定することができること。

○課題研究の成果について発表をする機会を設けるようにすること。

課題の設定に当たっては、生徒の興味・関心、進路希望などに応じて、これまで学んできた学習成果を活用させ、内容の(1)から(4)の中から個人又はグループで適切な課題を設定するようにする。また、内容の(1)から(4)の複数を組み合わせた課題を設定することもできる。その際、施設・設備、費用、完成までの時間、生徒の能力・適性などを考慮し、無理のない課題を設定するよう配慮する。

指導に当たっては、学科を越えたグループ編成などの工夫を図るとともに、事前に上級生の発表会を参観させたり作品を見せたりするなどして、生徒自らが課題を見付け、設定できる環境作りが大切である。

課題設定から課題解決にいたる過程において、適時に適切な手法を用いて創意工夫した課題解決の取組みができるよう配慮するとともに、生徒の創造性を引き出すよう工夫する。

また、指導に当たっては、課題解決の過程で「計画→実行→評価→改善」などの評価サイクルなどについても理解させ、活用できるようにする。

研究の成果を整理し分かりやすく発表することは、思考力、判断力、表現力等の育成や言語活動の充実を図るとともに、生徒自身の学習を深める上で大変効果的であり、発表の機会を設けるようにする。

【課題研究の内容】

(1) 作品製作

ここでは、これまでに各科目で習得した知識や技術を活用し、さらに新しい知識と技術を学びながら作品を完成させる。作品製作例としては、原材料を加工し形態を変化させた作品、コンピュータプログラムやシステムの開発、原材料を質的に変化させた製品、デザイン制作や模型製作などが考えられる。

(2) 調査、研究、実験

ここでは、環境保全と技術、産業や工業の発展と生活とのかかわり方、各工業技術の発達、歴史的技術や建築物・土木構造物などの成立過程、技術的内容などの調査・研究やそれに基づいた作品や模型の製作などが考えられる。また、工業製品を設計するときの構造、形状、大きさや強度実験、素材として使用されている材料の特性を調べる実験、製造工程における反応条件を調べる実験なども考えられる。

(3) 産業現場等における実習

ここでは、産業現場等における体験的実習を通して、勤労の厳しさと尊さ、ものを作り上げるための苦労や感動、責任の重さなどを体得させるとともに、各学科に関連する知識と技術を総合的、発展的に習得させる。実習例としては、地域の生産工場や事務所などにおける組立作業、生産計画、測量、研究の補助、検査などが考えられる。

(4) 職業資格の取得

ここでは、生徒自らが取得を希望する職業資格や各種検定試験の学習を通して、これらを取得するための学習方法を企画・立案して実践し、専門的な知識や技術を習得させるとともに、この学習を通して自らの進路意識を高め、適切な進路選択に役立てさせる。なお、職業資格や検定としては、自動車整備士、ボイラ技士、電気工事士、電気主任技術者、情報処理技術者、毒物劇物取扱責任者、公害防止管理者、測量士補、施工管理技士、インテリアコーディネーター、カラーコーディネーター検定、各種技能検定などが考えられる。

IV 昨年の実施状況

1 平成23年の課題研究の状況

平成23年度に、地域連携事業「まちづくり貢献活動」として県立龍野北高等学校環境建設工学科が取り組み、建築士会龍野支部青年部会が指導・育成をされていた。建築士が「保全と地域の環境整備」のため歴史的建築物の修景に携わることで専門的な知識や技術、建築士の仕事を通じて将来のまちづくりの担い手を育成していければと考え取組まれていた。会員で講師をしたり、専門的な工種の方を招いて教えて頂いたり、専門家が携わることで学校内とは違った社会の厳しさを感じてもらいながら伝統的な知識や技術を伝えていったり、建築士の存在がアピールでき、地域貢献と共に担い手づくりがしていけると考えて取組まれていた。



最初に作業したのは樋工事である。生徒と話し合い「プラスチック製の新しい樋に付替える」や「なんとか古い雰囲気を維持できないか」など色々な意見がでたが、景観を重視することとなり、既存のブリキ製の樋を掃除し、内部に見えないようにプラスチック製の新しい樋を仕込む施工方法に決定した。



どれくらいの工種があるの？って問いかけ、皆でどんな仕事があるか話し合った。ガードマンから現場監督、足場工、板金工など沢山の業種が交わって現場を構成していることを学び一つの作業を通じて、各工種の関わりや、安全管理、意匠性など色々な事を考え、話し合うことが出来たのではないかなと思う。



樋の歴史についても深く学んだ。ブリキの板から手曲げでこの樋を現在も作っている。

歴史的建築物の修理に携わることでそんな専門的な知識や技術を肌で感じとる機会をもつことができた。



課外授業の現場の草刈りの様子。作業効率、安全の確保のため重要な仕事でもある。掃除や片付け、草刈りなどはしんどい仕事だが大事であることを教わっていた。



工程管理や、安全管理、現場の資材配置や現場小屋のレイアウト、仮設計画などを学ぶため実際の現場に見学に行くことにした。歴史的建築物の修理現場ではなく、耐震改修現場を選び、工事の内容は違っても流れは同じであることをしっかりと体験してもらうためである。



陸墨と縦墨を出し、基準線を出している。中々うまくいかないが、現場らしくなってきたみんな真剣な様子。



現場近くで歴史的建築物の修理・修繕が行われているとお手伝いや、ワークショップ（歴史的建築物の清掃、素板張り、古色塗り、）にどんどん参加しました。

2 平成23年の課題研究の課題

課題研究の目的でもある、閉ざされたままの蔵を修景し、新しい風を吹き入れ生まれ変わらせようとする。私たちの活動で地域を活性化させ、かつての賑わいを取り戻せたらと考えている。建築士も生徒と共に存在がアピールでき、地域貢献と共に担い手づくりができていけると考えて取り組んでいる。

昨年は、一連の工程を授業に組み込まず、単体だったため1～2回で終了してしまった。次の授業の教材探しや、現場提供を交渉するだけでも大変であった。何とか繋ぎながら一年を終えたがプログラムの開発や担い手を育成する手法の開発をしていければと課題が残った。

V 課題解決に向けた方策の検討

歴史的まち並みが現存する地域において、町家等の歴史的建造物が適切なメンテナンスをされずに老朽化し、取り壊され空地化するといったケースが増加している中、歴史的まち並みを保全していくためには、適切なメンテナンスや修理等を行える地域に密着した職人等が必要である。

地元高校生等が歴史的建造物等について興味を持つ機会を作り、技術を習得できる環境を整えることで、歴史まちづくりの若い担い手を育成していくことができる。また、若い担い手を育成するためには、歴史的建造物の所有者や地域住民の協力等により、技術習得等の活動を継続的に支えていくとともに、地域で歴史的まち並みの保存と活気ある地域づくりに取り組むことが効果的である。

- たつの市をモデル地域として、地元高校生が歴史的建造物への愛着とその保存等の取り組みを職業として興味を持てる課外授業を実施

- 課外授業で歴史的建造物に興味を持った高校生や卒業生のさらなる育成と地域の意識向上

担い手育成の手法の開発



高校生の課外授業のプログラムの開発

第3章 歴史的建造物の改修等の課外授業

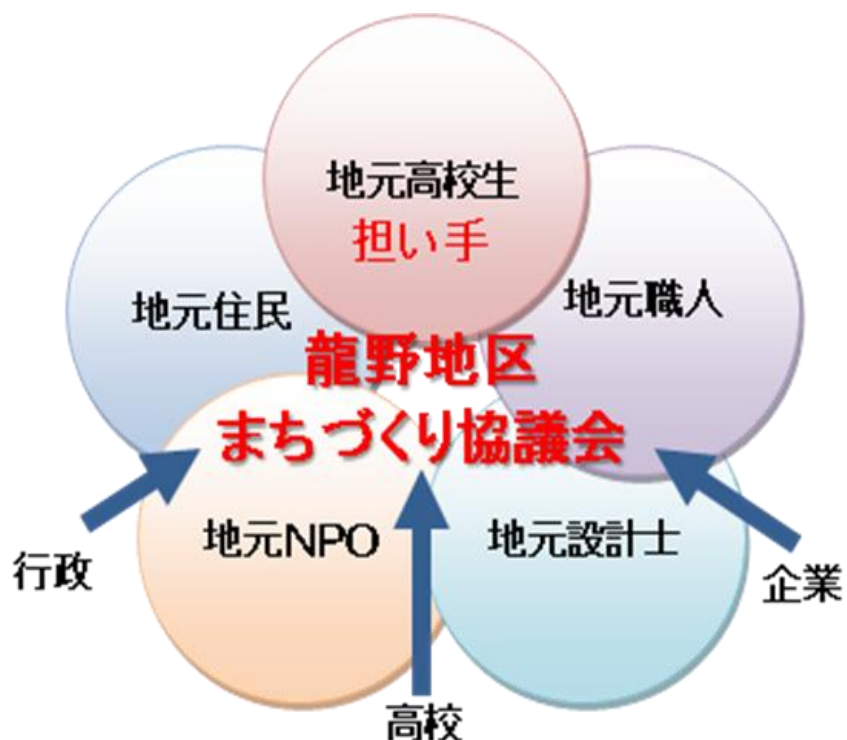
I 調査体制・実施の流れ

1 調査体制・実施の流れ

龍野地区まちづくり協議会は今回の調査で、学校・専門家・行政と一体となった町並み保存への体制づくりとして各団体と連携していける体制づくりをした。

龍野地区まちづくり協議会が中心となり、地元建築士（兵庫県建築士会龍野支部青年部会や兵庫県建築士事務所協会龍野支部）と連携をし、県立龍野北高等学校 環境建設工学科の生徒を担い手として育成していく。地元建築士が地元職人の発掘や手配を行い、協議会が地元住民や地元NPOの協力を呼びかける。また、高校や行政、地元企業への協力体制も構築していく。

【調査体制図】



II 調査計画

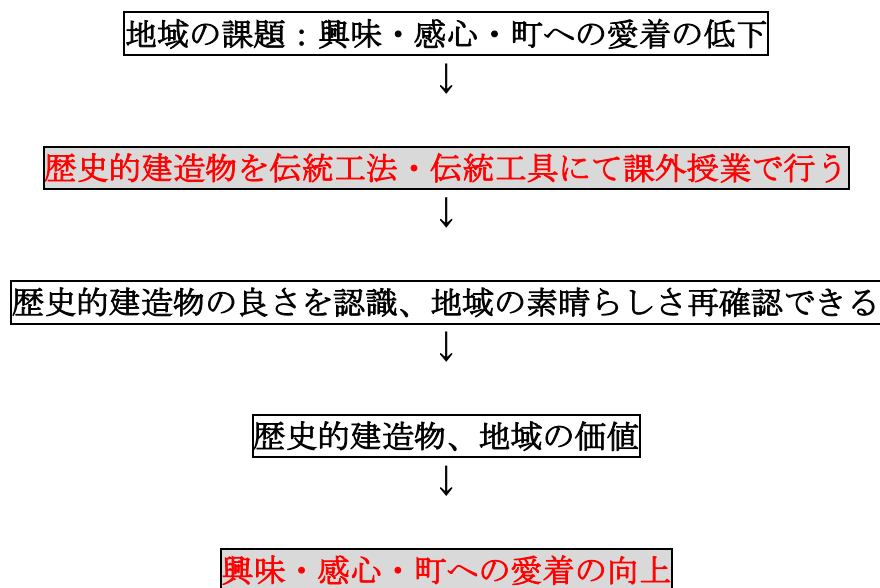
1 課外授業のプログラムの計画

職業として興味を持つ課外授業のプログラムの検討についてポイントは、

Point→進学、就職など岐路にたつ高校生にふるさと、歴史的建造物、たつのの魅力を伝えることにより将来、地元での就職を考えたりUターンしてくれることを思い、高校生の時期に伝える。

Point→全工程の職業を伝え将来の視野を広げてもらうようように計画する。色々な職業がある中、広く全般に職業を知ることにより高校生の将来の視野を広げ、どの業種も段取りが大事だと感じてもらい、どの職業に就職しても役立てれるよう計画をする。

Point→環境保全と技術、歴史的技術や建築物などの技術的内容などが順を追って授業できるように検討する。伝統素材、伝統工具など使用できる工程を組み、継続的な育成が可能となるように検討を行い、地域デザイナー・大工・左官等の専門家、職人と交流を図ったり、地域住民との交流を行えるようにする。（地域参観日等）



【プログラムの基本的構成】

工種	内容	時間	概要
仮設計画	現地確認・把握	120	建物規模、周辺の把握
造園工事	草刈り・剪定・準備	120	建物周辺の作業スペースの確保
足場工事	外部足場	120	建物との距離、作業スペース
外部調査	調査・点検	120	全体の作業量の把握、点検
撤去工事	既存撤去	120	損傷箇所等の撤去
足場工事	内部足場	120	建物との距離、作業スペース
内部調査	調査・点検	120	全体の作業量の把握、点検
大工工事	外部焼板張り	120×4	材料の確認、工具の使い方
左官工事	中塗・漆喰塗	120×2	材料の確認、工具の使い方
板金工事	樋工事	120	材料の確認、高所作業
大工工事	内部板張り	120×2	材料の確認、工具の使い方
塗装工事	古色塗り	120×2	材料の確認、工具の使い方
造園工事	アプローチ整備	120	材料の確認、工具の使い方
雑工事	清掃・後片付け	120	全体の片付け、確認

注：一回の授業を120分とし、全授業の目安とする。

各工種の詳細な実施内容について、具体的に整理する。

仮設計画（現地確認・把握）

【指導方法】

- ・実際の現場で何に気をつけるか。（近隣の状況、樹木、電線等邪魔になるか確認）
- ・作業効率を考えた読み取りが出来るよう、現場確認を行う。

【作業内容】

- ・現場の状況や、近隣周辺の状況を把握しあう。
- ・周辺を歩き、現場の規模を体で感じる。
- ・現場の配置を考える。（搬入資材、作業スペース、作業車スペースなど）

【注意事項】

- ・現場の空気にふれ何に気付いていくか。何に気付かせることができるか。
- ・危険箇所を把握させる。
- ・現場にいない時のこと（夜や、休日）を考えさせる。

造園工事（草刈り・剪定・準備）

【指導方法】

- ・作業スペースの確保のためと、樹木の剪定（造園）の違いを伝える。
- ・道具の使い方の説明を行う。

【作業内容】

- ・現場の状況を把握し、作業スペース確保のための草刈りを行う。
- ・樹木等は剪定を行う。

【注意事項】

- ・今後の工程の作業範囲が把握できているか注意する。
- ・道具の取り扱いに注意する。
- ・養生の仕方、段取りの仕方を考えさせる。

足場工事（外部足場）

【指導方法】

- ・搬入材料の置き場所、後の作業スペースを考えさせる。
- ・足場材料の名称、手順を確認させる。
- ・目的（何のための足場か）、安全性の確認等を伝える。

【作業内容】

- ・外部足場を組む。
- ・足場材料の名称、手順を覚える。

【注意事項】

- ・全ての工種の人が使用するための安全確保がなされているか確認する。
- ・建物との距離等が把握できているか。

外部調査（調査・点検）

【指導方法】

- ・建物を読み取る力をつけさせる。
- ・作業量を把握させ、作業内容を話し合わせる。

【作業内容】

- ・建物の劣化状況や、部材の寸法を把握しあう。
- ・部材の種類、仕上げ方法の確認をする。

【注意事項】

- ・規模、作業量の把握違いに注意する。
- ・部材の種類により、作業材料の確認をしあう。

撤去工事（既存撤去）

【指導方法】

- ・ 周辺の安全確認ができていないか。
- ・ 道具の使い方の説明を行う。

【作業内容】

- ・ 建物の劣化箇所や、損傷箇所を撤去する。

【注意事項】

- ・ 周辺の人、既存建物の安全に注意する。
- ・ 高所作業の場合の安全確保を確実にを行う。

足場工事（内部足場）

【指導方法】

- ・ 搬入材料の置き場所、後の作業スペースを考えさせる。
- ・ 足場材料の名称、手順を確認させる。
- ・ 目的（何のための足場か）、安全性の確認等を伝える。

【作業内容】

- ・ 内部足場を組む。
- ・ 足場材料の名称、手順を覚える。

【注意事項】

- ・ 全ての工種の人を使用するための安全確保がなされているか確認する。
- ・ 建物との距離等が把握できているか。

内部調査（調査・点検）

【指導方法】

- ・ 建物を読み取る力をつけさせる。
- ・ 作業量を把握させ、作業内容を話し合わせる。

【作業内容】

- ・ 建物の劣化状況や、部材の寸法を把握しあう。
- ・ 部材の種類、仕上げ方法の確認をする。

【注意事項】

- ・ 規模、作業量の把握違いに注意する。
- ・ 部材の種類により、作業材料の確認をしあう。

大工工事（外部焼板張り）

【指導方法】

- ・材料の取り扱い、作業の手順を把握させる。
- ・道具の使い方の説明を行う。

【作業内容】

- ・材料の取り扱いや作業の手順を覚える。
- ・道具の使い方を学ぶ。

【注意事項】

- ・仕上げ材料の取り扱いに注意する。
- ・道具の取り扱いに注意する。
- ・養生の仕方、段取りの仕方を考えさせる。

左官工事（中塗・漆喰塗）

【指導方法】

- ・材料の取り扱い、作業の手順を把握させる。
- ・道具の使い方の説明を行う。

【作業内容】

- ・材料の取り扱いや作業の手順を覚える。
- ・道具の使い方を学ぶ。

【注意事項】

- ・高所作業の場合の安全確保を確実に行う。
- ・道具の取り扱いに注意する。
- ・養生の仕方、段取りの仕方を考えさせる。

板金工事（樋工事）

【指導方法】

- ・材料の取り扱い、作業の手順を把握させる。
- ・道具の使い方の説明を行う。

【作業内容】

- ・材料の取り扱いや作業の手順を覚える。
- ・道具の使い方を学ぶ。

【注意事項】

- ・高所作業の場合の安全確保を確実に行う。
- ・道具の取り扱いに注意する。
- ・養生の仕方、段取りの仕方を考えさせる。

大工工事（内部板張り）

【指導方法】

- ・材料の取り扱い、作業の手順を把握させる。
- ・道具の使い方の説明を行う。

【作業内容】

- ・材料の取り扱いや作業の手順を覚える。
- ・道具の使い方を学ぶ。

【注意事項】

- ・仕上げ材料の取り扱いに注意する。
- ・道具の取り扱いに注意する。
- ・養生の仕方、段取りの仕方を考えさせる。

塗装工事（古色塗り）

【指導方法】

- ・材料の取り扱い、作業の手順を把握させる。
- ・養生の仕方、道具の使い方の説明を行う。

【作業内容】

- ・材料の取り扱いや作業の手順を覚える。
- ・道具の使い方を学ぶ。

【注意事項】

- ・仕上げ材料の取り扱いに注意する。
- ・道具の取り扱いに注意する。
- ・養生の仕方、段取りの仕方を考えさせる。

造園工事（アプローチ整備）

【指導方法】

- ・材料の取り扱い、作業の手順を把握させる。
- ・養生の仕方、道具の使い方の説明を行う。

【作業内容】

- ・材料の取り扱いや作業の手順を覚える。
- ・道具の使い方を学ぶ。

【注意事項】

- ・仕上げ材料の取り扱いに注意する。
- ・道具の取り扱いに注意する。
- ・養生の仕方、段取りの仕方を考えさせる。

雑工事（清掃・後片付け）

【指導方法】

- ・現場をきれいにしておくことが安全につながることを教える。
- ・持ち主へお返しする感謝の気持ちを伝える。

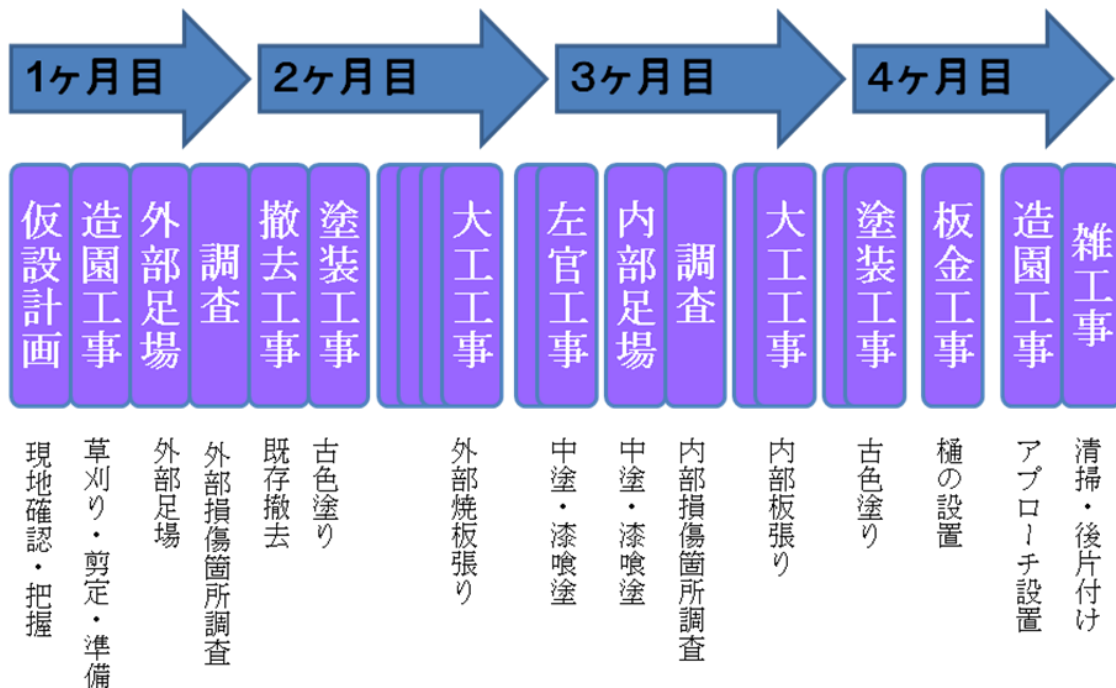
【作業内容】

- ・現場の清掃、後片付けをする。
- ・周辺も確認し、作業残がないか確認する。

【注意事項】

- ・現場の清掃を行いながら作業の確認をさせる。

【プログラムの基本的流れ】

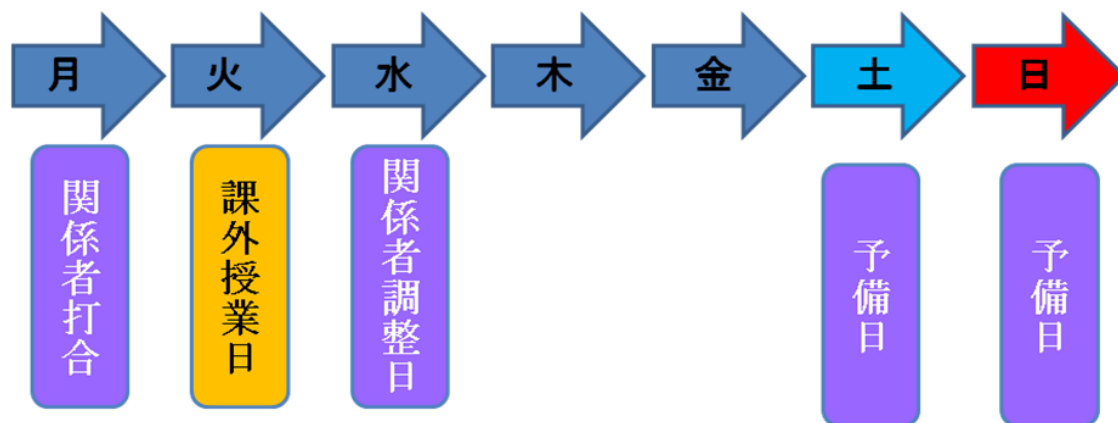


色々な職業がある中、広く全般に職業を知ることにより高校生の将来の視野を広げ、伝統素材、伝統工具など使用できる工程を組み技術的内容等を順を追って授業していくには、通常1か月半程度の仕事を、課外授業の一週間サイクルのプログラムにしていく。全体工程で流れを見ると約4カ月になる。

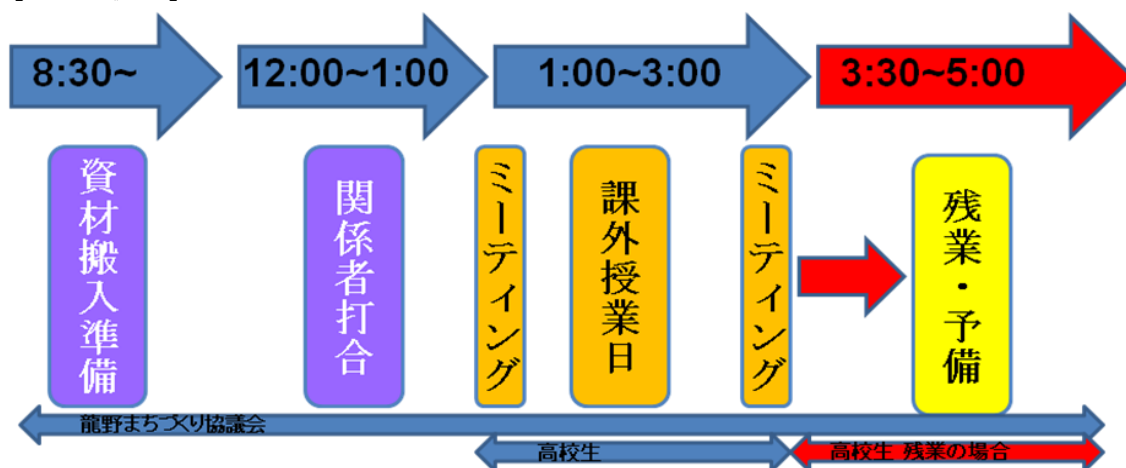
更に課外授業の時間割等を一週間と一日にし詳細にその内容の工夫していく。

まず、一週間を一作業（一工種）と考える。工種別に作業の工程を決定し、一週間で一作業（一工種）が終了するように組み込んでいく。普段の工事と違い、限られた授業の中で高校生に一作業（一工種）つつ完結させることで、工程が明確に進み、一作業（一工種）つつ達成感を感じてもらおうよう工夫する。

【一週間の流れ】



【一日の流れ】



一作業の一番作業らしい状態の始まりから終了で2時間の作業量を課外授業にあてる。課外授業2時間をピークにすることでより分かりやすい授業となる。

Point→高校生にミーティングをしてもらい作業の段取りを立ててもらおう。(作業前、後)

Point→課外授業の2時間をピークにするため、関係者は午前中に資材搬入や現場の下準備を行い打合せを行う。

2 課外授業の教材の計画

龍野まちづくり協議会は、物件候補を抽出し、16項目にわたり点数を付け総合得点の高い物件を教材として選んだ。

0：評価、ダメ
1：評価、低い
2：評価、まあまあ
3：評価、高い

平成24年度 歴史的風致維持向上推進等調査 教材選定表

	候補物件	改修対象	まち協					作業性				活用性				北高		評価計	
			持ち主の同意が得られるか？	期間中に結果報告が出せる物件か？	町への波及効果は？（途中・完成後）	住民から認知されやすい場所か？	龍野での物件の意味合いは？	高校生の技量に合った物件か？	長期工事↓周囲に迷惑がかからないか？	作業の安全性が確保できるか？	補助対象外の経費が発生した時どうか？	その後の活用が可能か？	一般的に活用できるか？公共性は？	活用の主体が見込めるか？	今後まち協が活用運営できるか？	今後北高が活用していただけるか？	教材として一連の流れを作れるか？		北高の希望は？
1	I	外壁	3	3	3	3	3	3	2	1	3	0	3	0	1	1	0	32	
2	K	屋根	3	1	3	2	3	1	1	2	0	3	2	0	1	2	1	0	25
3	Y	全体	3	3	1	1	2	3	3	3	3	3	1	2	2	3	1	37	
4	別館	全体	3	3	3	2	2	3	3	2	3	3	1	2	2	3	3	41	
5	W	修理部	3	3	2	2	2	3	3	3	0	3	3	3	2	3	2	40	
6	N	白壁	0	3	3	3	3	1	2	2	0	0	0	0	0	1	0	18	
8	K	全体	0	2	3	2	1	2	1	2	0	1	1	0	0	2	0	17	
9	D	全体	0	0	1	1	2	1	3	3	0	2	2	0	0	1	3	0	19
10	T	全体	0	0	1	1	2	1	1	2	0	0	0	0	0	1	0	9	
11	S	全体	3	1	1	1	3	1	2	3	1	1	1	3	0	1	3	0	25

3 教材の選定

項目の抜粋としては、

- ・持ち主の同意は得られるか？
- ・学期中に終了できる物件か？
- ・高校生の技量に合っているか？
- ・安全確保はできるのか？
- ・一連の工程がつかれるか？
- ・学校の希望は？
- ・町への波及効果は？
- ・活用していけるか？

などなど、協議の上、学校側（先生）に物件を事前に見ていただき、内容を説明し、最終決定とした。



4 今回の教材（物件）

課外授業教材物件『うすくち醤油資料館別館の蔵（龍野醤油協同組合所有）』


- ・ 明治32年ごろ龍野醤油協同組合事務所に隣接する蔵
- ・ 事務所棟は洋館（近代建築）
- ・ 隣接の蔵は試験場（和風建築）
- ・ 面積 約160㎡




Ⅲ 課外授業の実施状況


1 課外授業の実施状況・意見

工程	仮設計画：現地説明、現地確認、規模確認（2012. 8. 23）
写真	
住民等の意見	満田副会長より、龍野北高校生徒へお願いと激励


工程	造園工事：草刈り、剪定、準備 (2012. 9. 11)
写真	
先生の意見	<p>授業では一切触れることのない分野で、生徒も教師も初めてのことで新鮮であった。</p>
指導者の意見	<p>今回は、植木の剪定をしてもらったが、造園職人来てもらって作業手順などを教えてもらった。私が特に良かったと感じたのは、作業要領や道具の名称の説明といったことよりも、“刃物を持つということ”がどうということなのか、どう取り扱うのかということに触れていただいたことです。日頃、刃物を持って仕事をされている方の重い言葉だと思います。生徒たちがこのことをどのように捉えたかは分かりませんが、作業以上に大事なことだったと思います。実際の作業についても簡単そうに作業する職人さんの動きを見て自分たちにも出来ると思ったようでしたが、当然思うようにいかずみんな“虎刈り”を連発していました。ただ刈っているわけではなかったということが理解できたようでした。また切った枝などをどのようにしてどこへ落としていくかなど、単に剪定している訳ではないということも分かったようです。生徒たちからも日頃の自分達の行動にも活かしたいなどという言葉が聞けるなど、よい1日だったのではないかと思います。</p>


工程	仮設工事：外部足場（2012.9.18）
写真	
先生の意見	<p>就職試験と重なり、いつも以上に少数での授業でしたが生徒は仮設の役割や重要性を知ることができたと感じた。</p>
指導者の意見	<p>今回は、足場施工の活動だったのですが、学校ではほぼ馴染みの無い楔緊式足場の施工だったので、生徒たちに戸惑いがあり思っていたほど進みませんでした。どちらかと言えば難しいとされる作業については、いよいよ開始する前に基本動作や道具確認などを十分時間をかけて行うべきだったかなと思いました。</p>
職人の意見	<p>見習いではありますが教える立場として皆さんの前で話をさせていただいたことで改めて足場の重要性や安全性について再確認することができました。また、まちづくりの重要な体験をさせていただきました。</p>


工程	外部調査：調査、点検（2012. 9. 25）
写真	
指導者の意見	<p>今回は、建物外部に生え付いた蔦を撤去したりと、いわゆる雑用的な作業を行いました。この作業が何につながっていくのかということの説明してもなかなか先が見えないようで、生徒たちのイヤイヤ感が伝わってきました。面白い作業ばかりではないよと言うのが精一杯でした。自分の下積み時代なんかを思い出しましたが、なぜその作業が必要なのかということも納得してやっていたので、嫌悪感はないことの方が多かったです。小・中学生くらいな子供ではないので、“楽しみながら作業する”という方針は、ちょっと合わないと思います。そういったことでは無くもう少し指導の工夫が必要かなと感じました。</p>


工程	地域参観日 (2012. 9. 29)
写真	
先生の意見	<p>午前中に土の掻き出しを終える予定であったが、作業場所が狭く身動きの取りにくい場所であり、蔦の根が予想以上にはっていたため、午後までかかっていた。途中雨が降ったりし、台風が来ることが予想されていたので、足場の布をまとめたり、工具類を吹き飛ばされないように整頓させた。墨板はずしは、一部の生徒と説明しながらの撮影を終えた後、皆で一気に行った。一部生徒に段取りの考え方を話されていたのが印象に残っている。こういうことは、授業ではなかなか伝わらないことである。</p>
指導者の意見	<p>作業内容は、前回とほぼ同じで出来なかったところを行った。前回ほど抵抗感は無かったように感じました。狭い場所で作業性の悪いところでの作業となるので、十分に作業手順などの作戦を練るように生徒たちに指示して様子を見たが、イマイチだった。良策へ生徒たちが気付くように誘導していくことが必要だと思うが、その“さりげない誘導”が思ったより難しく、なかなか伝わらなかった。行動で示せば簡単ですが、そこまですになると答えを教えているものなので、少し違うと思います。こういったことも私自身、熟練の必要があるかと思いました。</p>

工程	撤去工事：既存外壁撤去（１）（2012. 10. 2）
写真	
先生の意見	<p>残す部分を傷つけないように気を使いながらの作業で、道具の使い方についても少しは気をつけることができたと感じた。</p>
指導者の意見	<p>外壁焼板の撤去作業を行いました。生徒たちに作業方針を検討させてから開始したのですが、こちらの予想に反して作業スピードが今までに無く速く手際がよかったです。生徒たちに聞いてみると「作業用地を確保する為の作業よりも実際に建物を触っているという感覚が大きく、やっつけて楽しい」ということでした。楽しい作業ならば体も動く。なるほど良く解かりました。でも、途中から失速してしまって時間内に出来なかったのですが、生徒達自ら残業を申し出てきたので、定時を過ぎての作業を行いました。作業に対して責任感を持ってくれていたことが分かって嬉しかったです。生徒達も自分たちで課したノルマを達成して実に満足げな様子でした。またこの日は、三木市の生涯学習大学のメンバー50名ほどが自分達の授業の一環として私たちの活動を見に来られて、話を聞きたいとおっしゃられたので、3分ほどと言われたにもかかわらず、想いが強すぎて相当時間をオーバーしてしまいました。参加された方には喜んでいただきましたが、案内人の方にはタイムスケジュールの点で迷惑をかけてしまい、ちょっとだけ反省しています。短く想いを伝えるということは難しいですね。</p>


工程	撤去工事：既存外壁撤去（２）（2012. 10. 2）
写真	
住民等の意見	<p>なにやら大工仕事の音がして近づくと、そこは龍野北高校建築科の実習現場でした。毎週火曜日の午後の課程ですが、これだけでは工程が完了しないため土曜日にも終日作業にあたっているそうです。</p> <p>地元の方の指導で校内ではなく、外に出で古い建物の再生に取り組む授業です。今回管外研修が火曜日だったことから、授業参観を組み込んでいただいたのでした。この前に立ち寄ったうすくち龍野醤油資料館の蔵の再生も昨年の実習の成果品です。</p> <p>生徒たちは足場を組み、外壁板をはがしていました。先生や建築士から事業の説明を聴きました。地域に目を向けた教育を目の当たりにして感銘を受けました。昨年実習した生徒たちは卒業後外へ出ていますが、この夏帰省して今年の実習現場に集ったそうです。外へ出てみて龍野の魅力をはじめて実感したことを口にしたそうです。今回の研修でまたとない機会をいただき、デザイン科、建築科の取り組みに龍野北高校のすごさを再認識しました。</p>

工程	塗装工事：古色塗り（1）（2012. 10. 9）
写真	
指導者の意見	<p>漆喰と焼板の境になる見切材の塗装を行った。塗装作業自体は、夏休みに一度行っていたので、念のため塗装の意義や役割などを質問するとそれなりに適切な回答があったため少し嬉しかった。今回の作業手順や方法、注意点などを実演付で解説した後、全体の作業の進め方やチームプレイの方法などは生徒たちに相談させ自分たちのタイミングで作業させてみた。一応、制限時間を設けていたがいつまで経っても塗装作業に移れなかった。理由は、前回までに行った蔦の除去作業をいい加減にやっていた為、塗装面の清掃が進まなかったこと。一つ手を抜くと後で思わない事態に陥るということがよく解かったのではないかと思った。これについてはどんなことでも同じ。結局この日は、みんな自主的に残業し、17時までかけて1回目の塗装を終えました。この辺は、みんな偉いと思います。</p>


工程	塗装工事：古色塗り（2）（2012.10.9）
写真	
指導者の意見	<p>漆喰と焼板の境になる見切材の塗装を行った。塗装作業自体は、夏休みに一度行っていたので、念のため塗装の意義や役割などを質問するとそれなりに適切な回答があったため少し嬉しかった。今回の作業手順や方法、注意点などを実演付で解説した後、全体の作業の進め方やチームプレイの方法などは生徒たちに相談させ自分たちのタイミングで作業させてみた。一応、制限時間を設けていたがいつまで経っても塗装作業に移れなかった。理由は、前回までに行った蔦の除去作業をいい加減にやっていた為、塗装面の清掃が進まなかったこと。一つ手を抜くと後で思わない事態に陥るということがよく解かったのではないかと思った。これについてはどんなことでも同じ。結局この日は、みんな自主的に残業し、17時までかけて1回目の塗装を終えました。この辺は、みんな偉いと思います。</p>

工程	塗装工事：防腐処理（2012. 10. 20）
写真	
先生の意見	<p>使用材料の特徴を知り、取扱い方法を作業前に注意しあって、作業後の手洗い・うがいや作業着の洗濯を徹底。</p>


工程	大工工事：外部仕上（１）（2012. 10. 30）
写真	
指導者の意見	<p>今回は、「まちの参観日」と題して地域の方々をお招きして、生徒たちの焼板張り作業の様子を見てもらった。町の人たちが見に来て普通どおりだというのは素晴らしいですね。大工さんから焼板の特徴や施工方法、作業留意点などの説明を受けて作戦会議を行って作業を開始したけれど、やはり難しかったようで四苦八苦していた。こればかりは、道具の使い方や動きが関連する為、慣れることしか近道が無いが作業の予習を徹底した方が良かったと思った。</p>


工程	大工工事：外部仕上（2）（2012. 10. 30）
写真	
職人の意見	<p>本日の活動に参加して龍野北高校の生徒たちと会話し、確認しあったりと自由な心で接することが出来ました。私自身、若者たちと以前からこの現場で作業をしてきたような気持ちになり、楽しい1日でした。若いエネルギーが伝統ある建物に吹き込まれるというような施工がみんなで出来たのを感じました。</p> <p>今回のようなチーム作業をする場合には、各人が測った寸法など作業に必要な数値は、確実にそして密に伝達しあう確認しあうことを徹底してください。また、作業中の相手の心情を探ったり確認したりすることも大事なことです。イライラしていたりボーっとしていたり、意志の疎通が取れていないというのは、大きな事故に繋がります。</p>


工程	大工工事：外部仕上（2012. 11. 3）
写真	
先生の意見	<p>仕上材料の取扱いについて体感することができた。思い通りに釘が打てない硬い下地に悪戦苦闘していたが、「仕上に関わる」という他の作業には無い状況に目を輝かせていた。</p>
指導者の意見	<p>前回に行った焼板張りの続きを行った。今回は、東面を完了させるという明確な目標を挙げ、南面も張り進める方針を立てた。生徒たちの進路指導や資格講習会などと時間が重なり入れ替わり立ち代りの作業となったが、みんな目標に向かって休憩を忘れるほど集中して頑張った。時間がすぎ制限時間ギリギリで目標達成となった。やはり仕上がると作業前の状態とは全く違い、古い建物が蘇ったような感覚があったようで生徒たちは、やりとげたというような達成感のある表情を見せていたのが印象的だった。</p>
職人の意見	<p>施工要領が良く分からないまま行った前回とはすこし違い、作業に少し慣れたのか、ある程度の作業をこなせるようになっていました。また、作業が難しく進まない箇所もありましたが、私の知恵も素直に使ってもらいながら乗り越えてくれたのが嬉しかったです。今後は、数多くある“道具”というものにも注目していただきたいです。道具の数だけ仕事があります。道具が使えない、持っていないということになると、それに関わる仕事は出来ないということになります。これまでの作業で自分たちが使った道具の基本的な使い方をしっかり勉強してほしいです。</p>

工程	仮設工事：内部足場、片付け、清掃（2012. 11. 6）
写真	
先生の意見	<p>学校で習う「専門」には無いが、何のために掃除や片付けをするのかということ意識しながらの作業をすることができたと感じた。</p>
指導者の意見	<p>屋内作業の準備ということで蔵の中を片付け、屋根裏から垂れ下がっている蔦を撤去する作業を行った。 中に入っていた荷物が思いのほか多く、片付けが完了した時点で規定の時間となったが、蔦撤去作業が残っていた為、残業決定。 生徒たちは休憩もそこそこに自分達のすべきことを黙々とやっていた。 作業への取り組み方が始めの頃と違っていることが良く分かります。 高所作業の為、自分たちで枠組足場を組んだのですが、やったことあるからなのか、以前に行った楔金欠式足場の時とは違い、要領が分かっているというような動き方だったので感心した。 やはり予習の時間を設けたほうが良いと思った。</p>


工程	片付け、清掃 (2012. 11. 13)
写真	
住民の意見	<p>高校生の作業を見て、我々（資料館所有者）も片付け、清掃のお手伝いをしようと言う気持ちになった。若い力が町を動かしていく活力になることを願う。今後もケガなく安全に作業を進めてほしい。</p>

工程	蔵活用事例見学 (2012. 11. 17)
写真	
指導者の意見	<p>昨年から醤油蔵群で行われている龍野アートプロジェクトの見学である。昨年、今年と高校生も焼き板張りや片付けのワークショップが行われるときは参加していて、実際に蔵が活用されている様子を見学会を開催した。さすがに、自分たちの現場を照らし合わせ、こんな風になるんだと実感していた。目標がはっきり見え良かったのではないのでしょうか。</p>

工程	左官工事：漆喰塗り（2012. 11. 20）
写真	
先生の意見	<p>今回も焼き板に続き、仕上材料の取扱いについて体感することができ、生徒は自信に満ち溢れ取組んでいた。職人さんがあまりにも簡単に塗るのでだれでもできると感じたのだろう。実際に施工することになり、平らに塗れず悪戦苦闘していたが、「仕上に関わる」という他の作業には無い状況に目を輝かせ真剣に取り組んでいた。</p>
生徒の意見	<p>職人さんからアドバイスを頂き、実際に塗ってみてその意味が分かりました。この作業はみた感じよりも力がある作業で、すごく繊細な作業です。熟練の職人さんしかできない貴重な体験だった。</p>

工程	仮設工事：足場解体（2012. 11. 27）
写真	
生徒の意見	<p>足場を崩すときに一人ひとりの声の連携がなく落ちそうになったりする時があったりなど危険なことが多々あった。もっと一人ひとりが注意をして声を出さないといけないと思った。</p> <p>今回の足場撤去をし、声の連携が大事だと改めて思ったし崩していく最中に職人さんが、いたるところへ配慮されているのに驚きました。</p>
職人の意見	<p>準備、当日とも不備なく出来たと思います。当社も見習いを参加させ学生さんたちに実演を通し業務改善を感じれたことが良かったと思います。限られた授業の時間ではありますが、ひとつの建物を考案し、建造し永きにわたり残していくには近代的技術がある中でもやはり人間の手、考え、想いが大事だと担い手の方々との意見交換の場的なものが今後もあればいいなと思います。</p>

工程	片付け、清掃 (2012. 12. 1)
写真	
先生の意見	<p>周辺の片付けです。だんだん、何のために掃除や片付けをするのかということ意識しながらの作業をするようになったと感じた。</p>
生徒の意見	<p>散らかった作業場よりきれいな作業場のほうが作業しやすいし、使用させていただいた組合の建物周辺の片付け、清掃を行い感謝をこめてさぎょうしました。</p> <p>やはり片付け、清掃はしんどい。</p>

工程	造園工事：スロープ設置 (2012. 12. 4)
写真	
生徒の意見	<p>職人さんたちから言われた事の中で、基本的に技は盗んで自分のものにするという考え方をもって色々なことを勉強しなければならないという言葉が強く印象つきました。どんなことでも盗むという心構えをして、作業を見るのが一番の上達の近道だと思いました。自分の働くときはこのような心構えをしてどんなことでもい臨んでいきたいと思いました。</p>

工程	活用方法検討ワークショップ (2012. 12. 18)
写真	
生徒の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップで色々な案がありましたが、日替わりで行うと全て実現できるのではないかといい案がありとても良い案だと思った。このワークショップで伝える予定だった建物の利用や管理についての問題点と対策案を話し合うことができなかった。 ・地域の人と話して、自分が思ってもみなかった事が出来、地域の人を考えを知ることが出来た。自分たちの意見ももっと言えたのではないかと考えた。また、蔵の裏側のことや内部の危険や直したいいななどの意見もふまえていったら良いと思った。 ・ワークショップをして今後の活用案を出し合いました。自分たちだけでは思いつかないようなことも出てきて、やっぱり大勢で意見を出し合うことはいいことだなと思った。 ・一年間という長いようで短いような間でとてもたくさんの事を学びました。ここで学んだことは知識だけではなく今後、社会で生きていく上で人用となることを学びました。こんな経験が出来るのはやはりこの課外授業しかないと思った。今後も後輩たちにも受け継いでいってほしい。

2 実施状況の総括

高校生に対して、将来良い職人になって欲しいという願いを持って指導されているのが、自然に伝わってきた。高校生たちも、熱心に説明を聞いて、積極的に質問をしていた。初心者ならではの質問もあり、こういうところから一步一步成長していくんだなと実感できた。こういった高校生の成長と町並み保存活動が、住民に直接伝わる機会はとても貴重なことだ。もっと多くの人に関心を持ってもらえるよう龍野地区まちづくり協議会としても取組んでいきたい。

住民の声

- 今回だけでなく来年も再来年も続けてほしい事業だと感じました。
- こういった高校生の成長と町並み保存活動が、住民に直接伝わる機会はとても貴重なこと。
- 高校生に対して、将来良い大工(職人)になって欲しいという願いを持って指導されているのが、自然に伝わってきた。
- じっと聞いている高校生の後姿は実に頼もしい

生徒の声

- 掃除や草刈りといった雑用が多くて楽しくない!
- 残業や、土曜に朝から夕方まで作業があった。しんどかった。
- 完成したときの達成感を味わうことが出来ました。
- 工程を理解することの大切さです。
- 職人さんの使う道具を使わせてもらって作業したこともよい経験。
- 何をするにも「段取り」が重要。

みんなの声



先生の声

- 生徒に段取りの考え方を話されていたのが印象に残っている。こういうことは授業ではなかなか伝わらないことである。
- どの作業でも共通して、効率よく作業を終えて次へ引き継ぐにはどうすればよいか、先を見通して作業をすることを考える機会。校内ではすることのできない規模で作業を体験することができた。

職人の声

- 開始する前に基本動作や道具確認などを十分時間をかけて行うべきだ。
- 予習の時間を設けたほうが良いと思った。
- 道具の数だけ仕事があります。道具が使えない! それに関わる仕事は出来ない。道具の基本的な使い方を教えたい。
- 学生の前で教える立場として、自分の仕事の重要性を再認識した。
- 学生さんを通じ、当社も新入社員を参加させましたが、業務の改善が必要と感じました。

【生徒の一年間の感想】

T君

昨年度の課題研究発表会を聴いて、先輩方から実習現場を引き継いで「自分たちが完成させるんだ」と意気込んでこの班を選択しましたが、2学期以降は別の現場を勧められそちらで頑張ることになりました。現場ではすぐに壁を張り替えたり、塗り替えたりできると思っていました。しかし初めは敷地内の草刈りや荷物運びばかりでした。「楽しくない」「もうやりたくない」と思っていました。作業前にも説明や話し合いで時間が無くなって、結局残業ばかりでした。でも、段取りを上手くすれば作業ができるということに気がつくことが出来ました。多くの職人さんになりましたが、どの職人さんもやはり段取りが一番大事といわれていました。道具を大切にすることなども学びました。

完成したときの達成感を味わうことが出来ました。

散らかった作業場よりきれいな作業場のほうが作業しやすい。だから作業前の掃除は大切だということや、段取りしだいでその後の作業効率がよくなることなどがわかりました。

H君

建設業に就くのが夢で、知識や技術が学べると思って選択しましたが、いざ作業が始まってみると草刈りだったので楽しくなかったが、身の回りの掃除や下準備が大事だということがわかった。ほかの作業では、職人さんの使う道具を使わせてもらって作業したこともよい経験となりました。4月からの実習を振り返ってみると、楽しい事よりもしんどい事の方が多かったです。

T君

この実習を通して感じたことは、工程を理解することの大切さです。その日の作業で何をやるかがわかっていないと、作業に取り掛かることも出来ません。すべての時間で初めに「その日の作業予定が発表され、それについていかに効率よく作業するかを話し合い作業に移る」ということが繰り返されました。裏方の仕事であっても unnecessaryな作業はないことがわかり、一生懸命取り組むことができました。

M君

この班を選択した頃は、いろんな作業ができて楽しそうだとしか感じていましたが、実際に作業をしてみると、掃除や草刈りといった雑用が多くて楽しくありませんでした。しかも班の選択をするときには説明がなかった、授業時間内に作業が終わらなかった時は17時まで残業といった日や、土曜に朝から夕方まで作業があったりしたので、しんどかったです。しかし、この課題研究でひとつの仕事もいろいろな職種の人たちが関わって出来ることがわかりました。

Y君

この課題研究で一番勉強になったことは、いかに段取り良く作業をするかということです。初めは単に、修繕作業の手伝いをするだけだと思っていましたが、自分の考えていた作業は1割程度であとは掃除や片付け・準備が主でした。他にも、17時までの残業や、土曜日に1日中作業したりと、内容はしんどいものでした。

H君

建築現場を体験するつもりで選んだ班で楽しみでしたが、草刈りばかりで道具に触ることもなかったので、この班を選んだことを後悔しました。しかし、後々草刈り等の地味な作業にもすべて意味があり重要な役割を持っている事を知りました。大工道具を持って作業した日も思うように使いこなせることもできず何度も辞めたいと感じました。作業に慣れた頃に工事が終わってしまいましたが、その中で職人さんの持つ技の凄さや仕事の大変さがわかりました。

K君

何をするにも「段取り」が重要だということがこの1年間で勉強になったことです。仕事とは下積みからコツコツしなければいけないこと。「楽しい」とか「面白い」だけでなく「つらい」「苦しい」こともあるということ。どんなことにも心配りが大切なこと。職人さんはひとつの仕事であってもいろんなことを考えて作業をしていることなど本当にいろんなことを学ぶことができました。

S君

大工仕事をして楽しそうだと思ったから選択した班ですが、実際は作業の段取りなどが大変でなかなか楽しい作業はありませんでした。しかし現場での作業を通して、段取りの大切さや、それぞれの作業の大切さを学ぶことができました。

IV プログラムや教材の評価・改善

1 意見の集約

○住 民→実際に建物をさわって改修するという事は、机上の勉強を実践する上で、非常に貴重な体験だと思います。特に歴史的な建物が多いこの地区において、そのような立派な建築物を壊したり、取っ払ったりして、また同じ工法で復旧するを経験することで、理論が技術として身についてくると感じます。また、歴史的な建造物に対する注目度も今まで以上に向上していくものと確信しております。この体験が、彼らの今後の建築人生にプラスになることは議論の余地がないものと考察します。大変ですが、今後も継続をよろしくお願い申し上げます。

龍野北高校の生徒たちが参加しているという情報を聞き、作業の様子を見学に行きました。生徒たちがどんなことをするのだろうと関心がありました。生徒たちが足場を上がったたり降りたり真面目に丁寧に動いていました。古い建物に若い力が注がれて力強い建物によみがえっていきます。龍野の町は、古い建物が多く、その中で高校生たちが力を入れてくれることは、素晴らしいです。若い人たちは、古い建物に目を向け大切に作る気持ちを育てていきます。今回だけでなく来年も再来年も続けていってほしい事業だと感じました。

○先 生→校外での実習も外部団体とのタイアップも、個人的には今回初めてであり改善策や意見を述べるまでには至っていません。感想としては、どの作業でも共通して、効率よく作業を終えて次へ引き継ぐにはどうすればよいか、先を見通して作業をすることを考える機会になったと感じる。校内ではすることのできない規模で作業を体験することができた。

○職 人→古い工法など担い手がいなくなってきて、さびしい限りです。このような活動の機会があつて高校生くらいの職能としてのとらえ方が出来る年代に作業を見たり体験してもらったりする機会は、技能の伝承、保存の上でも、非常に重要なことで我々も注目しているところです。昔の技法が今の技法に劣っているなど全くありません。今後いろいろなところでこのような試みが行われることを期待します。

○指導者→高校生に加えて、住民の方など幅広く伝統工程を見ていただくことが出来た。ただ、安全面の優先や天候など、校外ならではの対応が付きまとう。そうした中、工程監理や準備、指導内容の把握など様々な配慮が必要になってくる。指導者や職人の不足は致命的である。しかし、高校生の期待に答えられるようなプログラムの中、課外授業は進んだ。もっと事前打ち合わせや、段取りが必要だと感じるし、もっと事前勉強会が大切だと感じている。

○生徒→課外授業はもっと楽しいものだと思っていました。草刈りだの片付けだのやりたくありませんでした。しんどかったです。
しかし、授業でいろんな職人さんと出会うことができ、体験させていただき、どの職人さんも言われることが「段取りが大事だ」と同じでした。また、いろんな道具を体験させていただき、道具を大切にすること、道具の数だけ仕事があることを教えていただきました。しんどかったです、すごい達成感を味わうことが出来たと思います。

2 意見の分析

高校生の課外授業を通じて、住民が注目し始め町に対して波及効果があった。住民に対しても今後何らかの立場で協力してもらえるようなプログラムが必要かと感じる。

学校側（先生）では、一連の工程が中々校内で教えれないので課外授業が役に立っている。校内で事前勉強会をし、次の課外授業で何をするか机上で勉強する機会を作ってはどうか。

職人とは、中々このような形で意見を交換したり職能を説明する機会がない。当然高校生に触れることもない。まず、このような機会をどんどん増やすことが担い手を育成することにも繋がると思う。

指導者は、一連の工程にしたり段取り（下準備）等、全体を進めていく上で必要だ。その日の工程を事前に予習しておく、スムーズな授業が出来そうに思う。

生徒は、とにかく仕事ってしんどいなと感じているように思う。その中で授業毎の達成感が重要になってくる。職人との対話や職人の道具にはすごく関心を示すので効果的だと感じる。

全体の意見を通して、高校生の歴史的建造物に取り組む姿が住民に対して効果的であり、高校生は職人と対話できることが興味、感心をもっていく上で必要だということがわかった。

3 実施したプログラムや教材に対する評価・改善

通常1か月半程度の工程を一週間のサイクルに組込むことで課外授業のカリキュラムにすることができる。約4カ月の工程を組み、専門の職人を導入することで生徒・職人・住民が密接な関係がもてるが、授業の量や内容は、課外授業中（2時間）毎で達成感を感じさせるカリキュラム作りが難しく、さらに週1回の2時間授業で各工程を合わせていくことが非常に難しいことがわかった。

昨年は単作業で行いましたが、通年で工程を組み作業に携わることにより各業種の仕事内容は違っても、どの業種も仕事の進め方、段取りは同じだと感じることができる。また、昨年と違いプログラムを組んだことにより一工程毎の達成感が明確になり、授業毎のミーティングにより達成できない時は自主的な残業も行うようになり興味、感心を持たせることができることがわかった。

プログラムとしては、職人と生徒を上手く工程に組み込むことで進めていくことができるが、2時間の課外授業の前に予習があればもっとスムーズ進めることができる。また、住民の地域参観など効果的ではあるが、一緒に作業する機会があればもっと波及効果があると感じる。

また、教材（物件）の検討が重要で、住民から物件を提供してもらうことでまちづくりの意識向上をねらうシステムが必要だと考えられる。高校生ということもあり技量や安全性も検討材料になります。プログラムに組み込める仕事（物件の劣化状況）があるかなども重要な検討事項となる。

卒業生に対し今後の連携に期待するが、龍野まちづくり協議会も今後の連携として窓口をはっきりさせ、卒業生の支援もしていける体制が必要である。

第4章 歴史まちづくりの担い手を育成する地域の体制

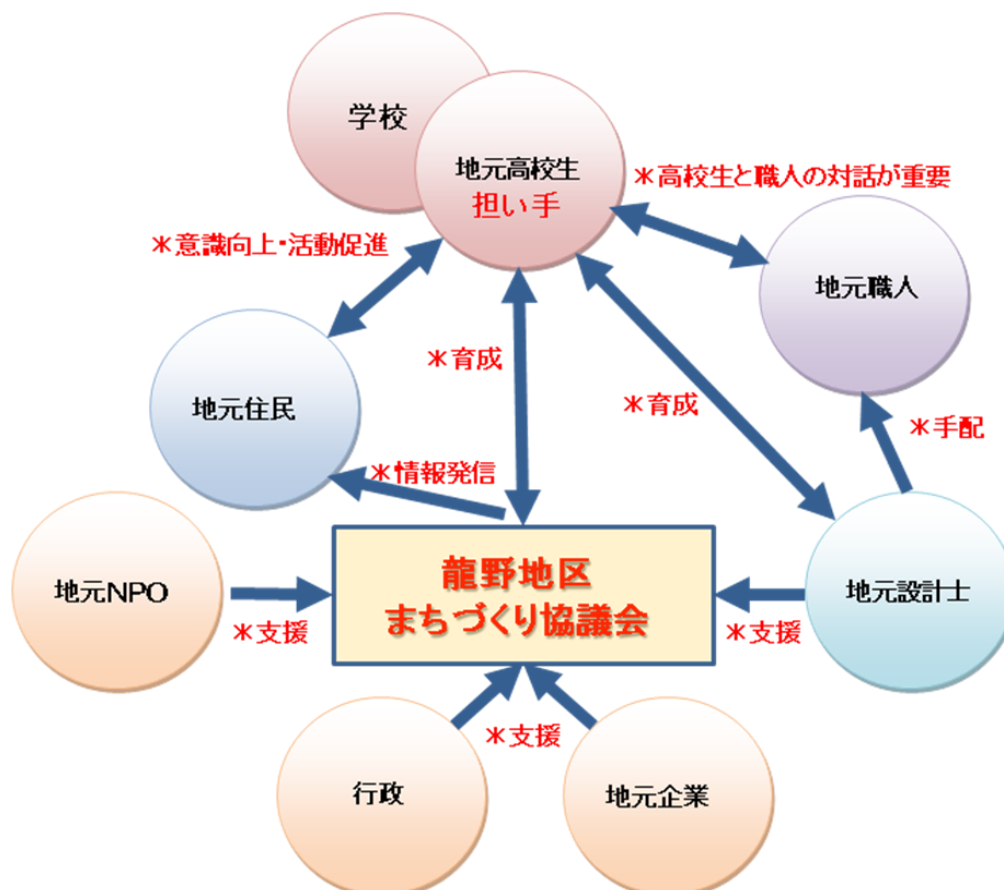
I 地域の体制

1 地域の体制づくり

歴史まちづくりの担い手を育成し、歴史的建造物のメンテナンス等に関わっていただけるような地域の体制づくりを検討した。課外授業の実施を行うことで、興味・感心・愛着を持った高校生や卒業生達の継続的な育成が可能となるように、地域住民・設計士の協力のもと高校生達が職人を通じ伝統技術や伝統工法を習得し、次世代の歴史まちづくりの担い手となり関わっていただけるような地域の体制づくりについて検討を行った。

歴史的建造物の改修等の課外授業の実施の取り組みが、地域住民等の歴史まちづくりへの関心や活動に対し、意識向上や活動の促進が効果的に図られるような地域の体制づくりについて検討を行った。また、体制づくりを行うために、協議会の新聞や回覧板等で地域への広報活動を行った。

【地域の体制図イメージ】



2 資金の調達

継続的に担い手育成の取り組みを実施できるように、課外授業教材の選定や地域活動を行っていく上で必要となる資金を調達する仕組みについて検討を行った。プログラムについて色々な評価、改善点を見つかり継続的に行う資金の調達の仕組みについても課題が残るなか、地域住民も机上で勉強するのと違い実際に歴史的建造物を触っている姿を目の当たりにして、歴史まちづくりや地域活動の促進に効果的な方法だと今後も期待している。

【検討案（1）】

課外授業としての教材（物件）の提供と、材料代の支給を龍野地区まちづくり協議会が公募を行い、地域住民に幅広く広報活動を行う仕組みを検討する。

今年行った課外授業の教材の選定を元に、公募頂いた地域住民の教材（物件を）を龍野地区まちづくり協議会内に評価委員会を設置し選定していく仕組みづくりを検討する。

【検討案（2）】

龍野地区でシンボリックな教材を抽出し、龍野地区まちづくり協議会で教材選定をし、優先順位をつける。そんな中、教材資金の調達する仕組みとして地域で歴史まちづくり基金を立ち上げ、課外授業の材料代等にあてる仕組みづくりを検討する。地域住民や、観光客に対して龍野地区内で歴史まちづくりに関したことで消費する際、何%が歴史まちづくり基金になるような仕組みを検討する。

3 地域の体制づくりと資金の調達の必要性

歴史まちづくりの活動を続けるために、歴史まちづくりの担い手を育成する高校生の課外授業の実施が地域住民にも興味・感心をもたらし、現地での意見の聴取や「地域の授業参観日」など参加者の意見より効果的であることがわかった。

平成25年度も歴史まちづくりとして課外授業を龍野まちづくり協議会が継続するための仕組みづくりとして「1地域の体制づくり」や「2資金の調達」【検討案（1）】【検討案（2）】について検討中である。

課外授業のプログラムを円滑に進めていく上で地域、専門家、企業、行政の協力体制（地域の体制づくり）と材料代等を購入するための資金を調達する仕組みを早急に構築していく必要がある。

第5章 本調査のまとめ

I 本調査でわかったこと

1 担い手育成の手法の開発

【専門の職人を導入することで生徒・職人・住民が密接な関係がもてる。】

これは、普段職人の仕事を見たり、意見を交換したり職能を説明する機会が少なく高校生の課外授業を行うことで、担い手を育成していき、交流の場をつくっていく。

高校生の歴史的建造物に取り組む姿が住民に対して興味、感心、愛着など効果的であり、高校生は職人と対話できることが興味、感心をもっていく上で効果的で課外授業で携わった教材にも愛着がわき、まちの歴史的建造物への見る目が変わる。

2 高校生の課外授業のプログラムの開発

【通常1か月半程度の工程を一週間のサイクルに組込むことで課外授業のカリキュラムにすることができる。】

これは、通常1か月半程度の工程を一週間のサイクルで課外授業を行い、専門の職人を導入することで生徒に、興味、感心を持たせることができる。

授業の量や内容は、課外授業（2時間）毎で達成感を感じさせる内容にしていくことが難しく、さらに週1回の2時間授業で各工程を合わせていくことが非常に難しいが通常の工程を4カ月かけることで課外授業のカリキュラムにすることができる。

3 地域の体制づくりと資金の調達の構築

【地域の体制と資金の調達は継続していく中で必要である。】

歴史まちづくりの担い手を育成し地域活動を続けるために、今回の歴史まちづくりの担い手を育成する高校生の課外授業の実施は、地域住民にも興味・感心をもたらし、効果的であることがわかった。更に、平成25年度も歴史まちづくりとして課外授業を龍野まちづくり協議会が継続するための仕組みづくりとして、地域の体制づくりや資金の調達について検討中である。プログラムを円滑に進めていく上で地域の体制と材料代等を購入するための資金を調達する仕組みを早急に構築していく必要がある。

II 今後の課題

1 課外授業

昨年と違い本調査でプログラムを組んだことにより一工程毎の達成感が明確になり、授業毎のミーティングにより達成できない時は自主的な残業も行うようになり興味、感心を持たせることができるが、授業の量や内容は、課外授業（2時間）毎で達成感を感じさせる内容にしていくことが難しく、さらに週1回の2時間授業で各工程を合わせていくことが非常に難しい。4カ月かけることで課外授業のカリキュラムにすることができたが指導者や、職人が長期になり負担が大きくなってしまう。

2 教材の検討

教材（物件）の検討及び選定が重要で、住民から教材（物件）を提供してもらうことで歴史まちづくりの意識向上をねらう仕組みづくりが必要である。高校生が課外授業を行うことで地域住民にも興味、感心が出てきている。地域の参観日などをもっと広報し地域住民の意識向上を図り、教材提供してもらえるようなシステムをつくる必要がある。

3 卒業生への支援

卒業生に対し今後、歴史まちづくりへの連携に期待する中、龍野まちづくり協議会も卒業生が連携しやすい窓口を設置し、卒業生の支援もしていける体制づくりをする必要がある。

Ⅲ まとめ

歴史的まち並みが現存する龍野川西地区で、歴史的建造物が適切なメンテナンスをされずに老朽化し、取り壊され空地化するといったケースが増加している現状課題をふまえ今回、龍野地区まちづくり協議会は、「課外授業による歴史まちづくり担い手育成の手法検討調査 ～次世代の担い手をつくる～」という調査を行った。

本調査は地元高校生が歴史的建造物への愛着とその保存等の取り組みを職業として興味を持てるように課外授業を実施した。課外授業で歴史的建造物に携わることで、普段職人の仕事を見たり、意見を交換したり職能を説明する機会が少ない高校生も興味、感心を示し、伝統技術、伝統工法を学ぶことで歴史的建造物の見方が変わり愛着もわいてきた。若い担い手を育成していきながら、課外授業が交流の場として効果的である。

今後も若い担い手を育成するためには、歴史的建造物の所有者や地域住民の協力等により、技術習得等の活動を継続的に支えていくとともに、地域で歴史的まち並みの保存と活気ある地域づくりに取り組むことが効果的である。そのためには、地域の体制づくりと資金の調達構築についても検討していく必要がある。

高校生は自主的に動き始め、住民は声を掛け合い集まり始め、本調査を通じさわやかに素直な気持ちでまちづくりに取り組めたと感じる。お互いの距離感が縮まり、歴史的なまち並み保存に向けて更なる体制を整え今後に繋げていきたい。

高校生が接着剤



担い手づくりが地域づくり



まちづくりになる

最後に課外授業の取組を通じ行政・専門家そして地域住民が「まちづくり」の視点で歴史的まち並み保存が重要伝統的建造物群保存地区へつなげる気運の上昇になる。

本調査を行うにあたり都市景観大賞を参考にするにつれ我々も景観大賞への気持ちが高まり、今後の龍野の歴史まちづくりにおいても一つの目標として必要である。



課外授業による歴史まちづくり担い手育成手法検討調査(龍野地区まちづくり協議会)

目的

- たつの市をモデル地域として、地元高校生が歴史的建造物への愛着とその保存等の取り組みを職業として興味を持てる課外授業を実施
- 課外授業で歴史的建造物に興味を持った高校生や卒業生のさらなる育成と地域の意識向上

取組内容

教材選びの検討



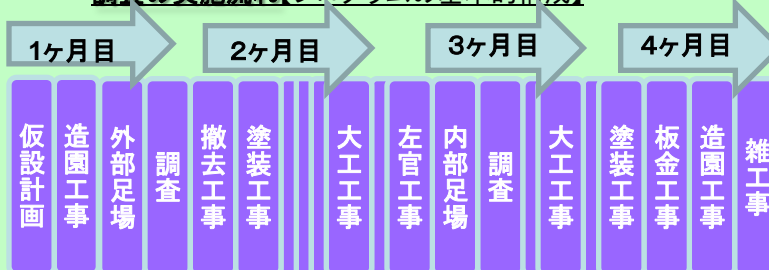
うすくち醤油資料館別館の蔵

【物件選定のポイント】

- ・持ち主の同意は得られるか？
- ・学期中に終了できる物件か？
- ・高校生の技量に合っているか？
- ・安全確保はできるのか？
- ・一連の工程がつかれるか？
- ・学校の希望は？

課外授業のプログラムの検討

調査の実施流れ【プログラムの基本的構成】



外部足場設置

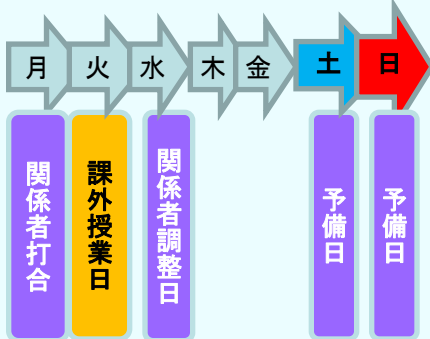


大工さんの講義中

通常1か月半程度の仕事を、課外授業の一週間サイクルにあてこむ。(約4カ月になる。)

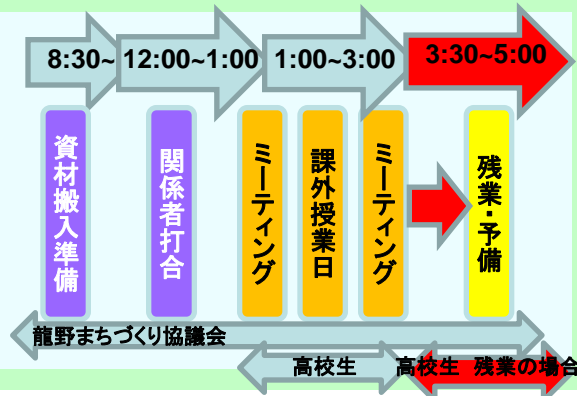
時間割りの工夫

●一週間を一作業と考える工種別に作業の工程を決定し、一週間で一作業が終了するように組み込んでいく。普段の工事と違い、限られた授業の中で高校生に一作業ずつ完結させることで、工程が明確に進み、一作業づつ達成感を感じてもらう。



課外授業の一日の工夫

●課外授業2時間をピークにする一作業の一番作業らしい状態の始まりから終了で2時間の作業量を課外授業にあてる。午前中に資材搬入や下準備を行い、関係者の打合せを行う。高校生にミーティングをしてもらい作業の段取りを立ててもらい、3時の時点でできなければ残業を考える。



本業務でわかったこと

担い手育成の手法の開発・・・専門の職人を導入することで生徒・職人・住民が密接な関係がもてる。
高校生の課外授業のプログラムの開発・・・通常1か月半程度の工程を一週間のサイクルに組込むことで課外授業のカリキュラムにすることができる。
担い手づくりが地域づくり「まちづくり」につながる！課外授業の取組を通じ行政・専門家そして地域住民が「まちづくり」の視点で伝建へつなげる気運の上昇になる。